へ13
3740
69

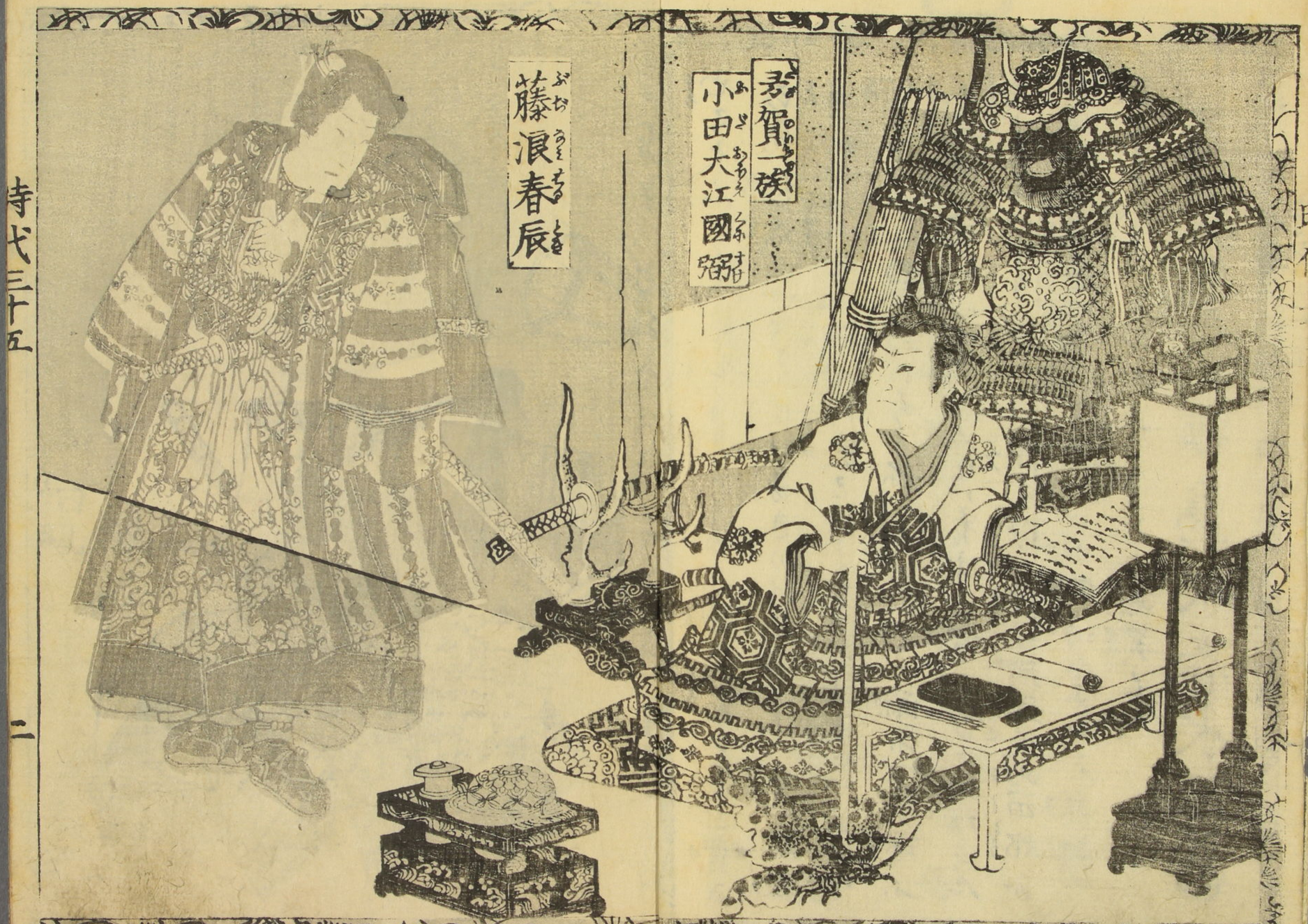
門へ13
號3740
冊69

世間業淡河代鏡
三十日海上の未来
春の花國の海苔の板

心こそ心まよはすとそ思ふ駒ふ心ゆるすと實ふ
ちの程深とゆ守く。迷ひ易きの結ハ恋ゆ。尓ハ忠臣
貞婦と貴ちち。淫婦奸夫と特ちるる。其本心ハ一ある。
何きての明るゆ〳〵ぬいあ〳〵孫ど。見るにつき聞ふつけ迷ふ
ゆ。迷ハされて。心の駒ゆ心をバ宥すと宥さるとにゆ。
甚しきふいつりて。今此編ゆ顯す所の阿兎天些四郎ゆ
如きなり童蒙心ふ心しして。むの由斷爲ゆ。と真顔で
誠くも久しゆ。老特ちりと人や笑ちん。

元治二乙丑孟春

爲永春水記


藤浪春辰
芳賀一族
小田大江國

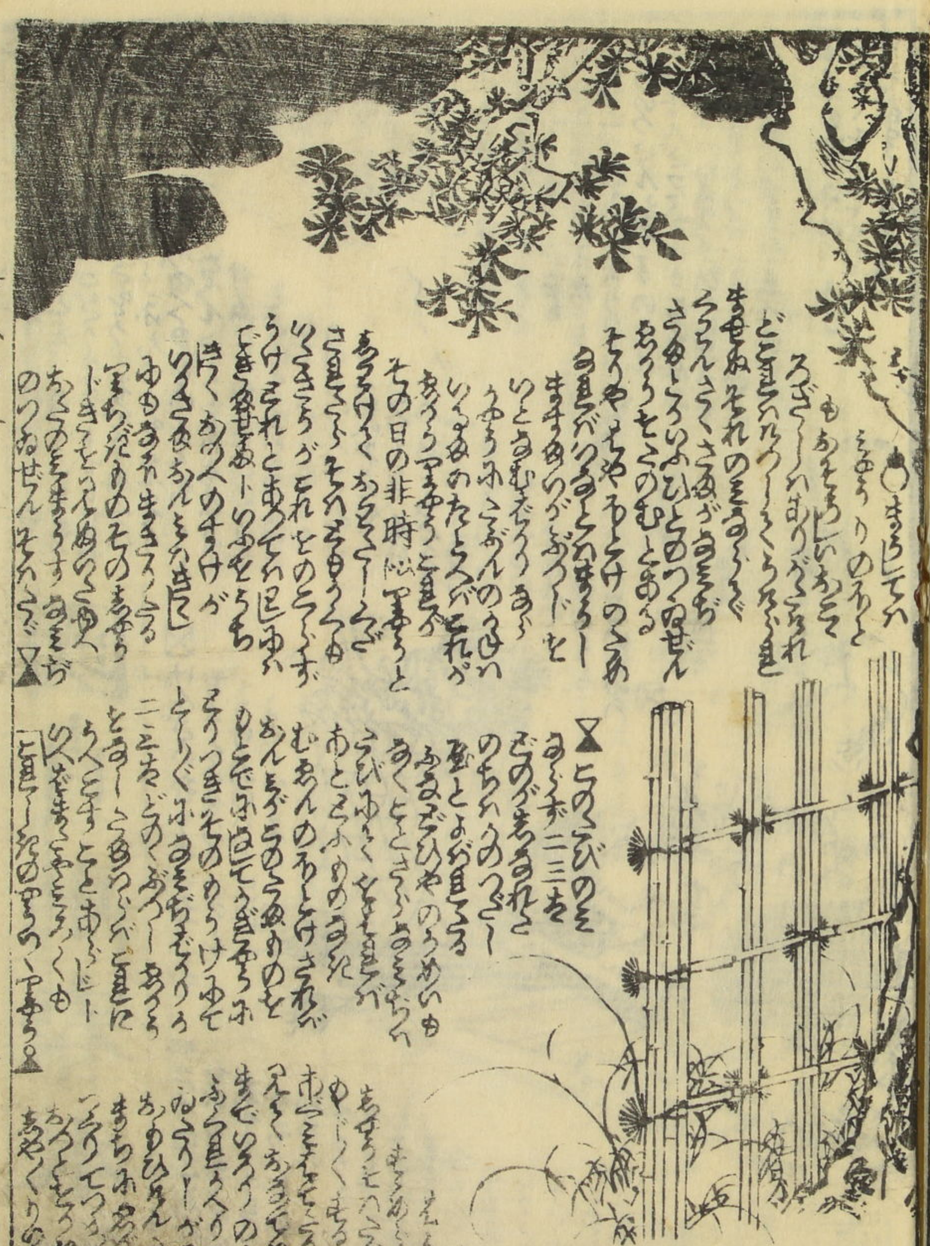
白山
友

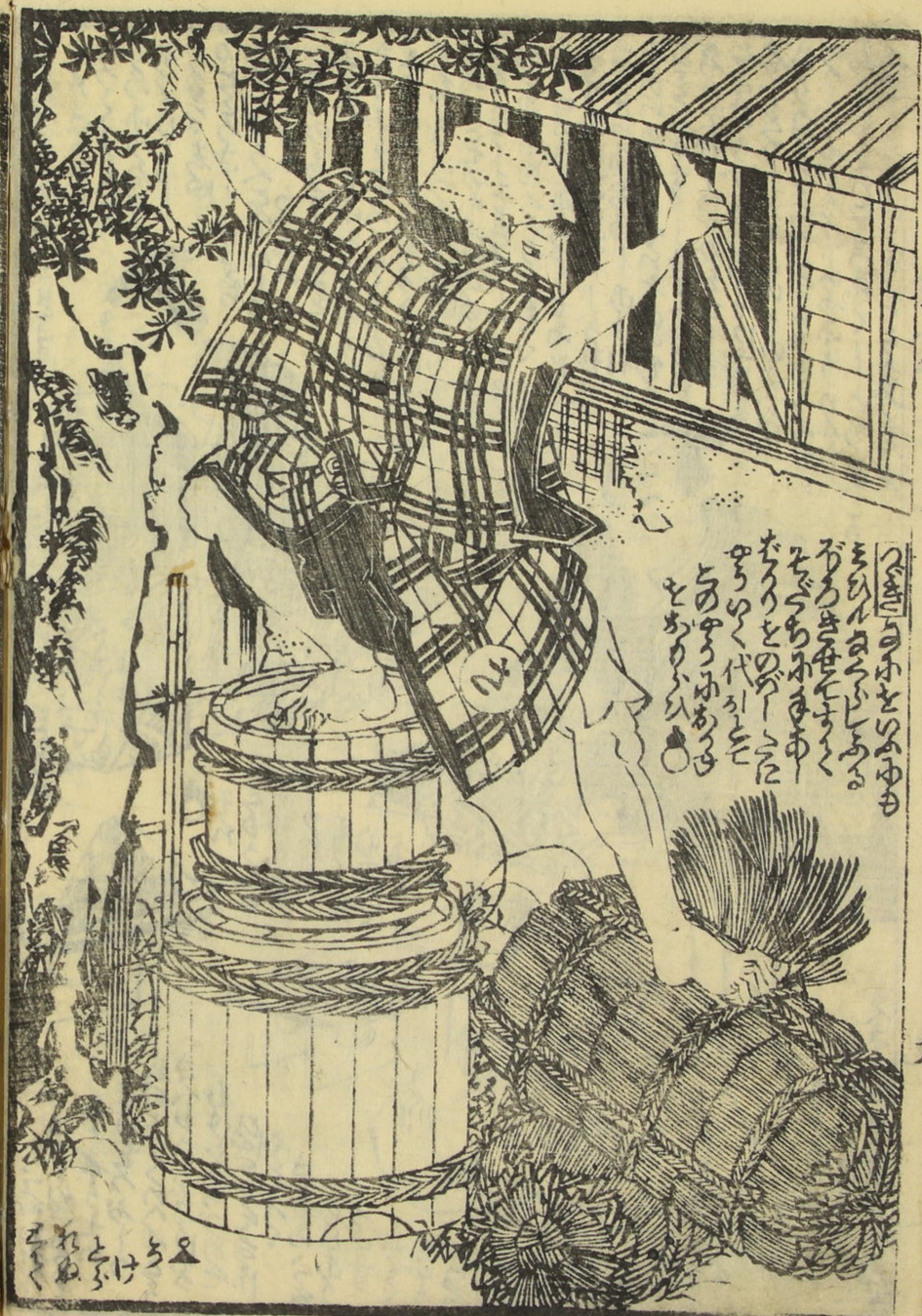
三十四編のつゞき

尾
越
正

松

越
正
尾





國貞画 春水作

風流亜半切 越前奉書紙 伊豫奉書紙

○縮緬しろ地半切
○えんむし 地吉切

狂齋百図 全
洞郁画

上製 南瓜の図

忠臣義士銘々傳
一極彩 芳虎画

目録包

当年新板 春の六歌仙

赤ぢり絵 代紙あり

御年玉に進物第八たとう入
地紙は美くなる色の下雲なる色

若林堂蔵